学部教育における老年看護学の教育の考え方

濱畑章子[1)]　大塚静香[1)]　岩瀬千尋[1)]　名和祥子[1)]

Ⅰ．はじめに

教育内容を考える際，学生に何を学んでほしいのか，学ばせるべきなのかという問いから始まるだろう．筆頭筆者は 1997 年から老年看護学を専門として学部教育に携わり，ちょうど 20 年になる．老年看護学を教育する者として，常に高齢者を取り巻く社会や政治，経済，家族形態の変化，学生の特徴などを踏まえながら教育してきた．朝日大学保健医療学部看護学科では 2 年次の後期から老年看護学教育が開始され，今年度で 3 年目となる．4 名の教員が講義，演習，実習まで学生にとって最も効果的な教育内容を検討し，共通認識を深めながら老年看護学教育を続けている．今回，朝日大学の老年看護学教育の概要を紹介し，今後の老年看護学教育について再考したい．

Ⅱ．高齢者の人口と看護教育におけるカリキュラムの変遷

老年看護学は 1989 年に看護教育カリキュラム上で位置づけされた（総務省 , 2017）．成人看護学の中に含まれていたのが独立して，老人看護学として科目立てされたのである．それまでも高齢化率の伸展によって病院や施設，地域などで看護の対象となる高齢者が多いため，高齢者の看護を専門に教授する学問の必要性が認識されていた．看護師を養成する学校では，意図的に老年看護に関する内容を含めたり，特別養護老人ホームなどで見学実習等を実施していた．1997 年には老年看護学と名称が変更され，講義と実習もそれぞれ 4 単位に増加した．また，2009 年の改正では老年看護学は生活の視点が強化された．このような老年看護のカリキュラムの変遷を高齢化率の伸展，保健福祉政策の変遷と比較してみると，老年看護学は高齢社会を支える専門教育として重要な役割を担っており，当看護学科老年看護学の導入として学生に認識させている（表 1）．

表 1　高齢者の人口と看護教育におけるカリキュラムの変遷

高齢化率		保健福祉政策		保健師助産師看護師養成所指定規則	
				1967	改正
1970	7%				成人、小児、母性看護
		1983	老人保健法	1980～	看護婦養成施設で意図的な老年看護の教育
		1988	社会福祉士、介護福祉法		
		1989	ゴールドプラン	1990	改正　老人看護学
1970	14%	1994	新ゴールドプラン	1997	改正　老年看護学 4 単位
2000	17%	2000	健康日本 21、介護保険	2001	老年看護専門看護師
2005	20%				（大学院）
2012	23.3%	2008	後期高齢者医療制度	2009	改正：生活の視点
2013	25%				
2016	26%				
2025	28.7%				

2017 朝日大学保健医療学部看護学科老年看護学概論資料

1）朝日大学保健医療学部看護学科（老年看護学）

老年看護学カリキュラムは，学修する学生の特徴，高齢社会の現状と課題，展望等を反映させて構築する必要がある．高齢になること自体，若い学生にとってまだまだ予想もできないことであり，どのように身体，精神，心理社会面が変化するのか，自分に置き換えることは困難である．また，自分たちの年代と高齢者の生活がどのように違うのか，高齢者がどのような社会的な状況に存在しているのか等，想像ができないことばかりである．しかし，将来，看護職として看護をさせていただくとき，高齢者は身近な対象となるだろう．このため，広い視野から高齢者を理解していくことが学部における老年看護学の基本であると考える．

Ⅲ．朝日大学における老年看護学教育

１．老年看護学の教育目的

看護学科が発足した１年目に老年看護学の教育目的，目標を定め，教育内容を構築する際，当看護学科の教育目標である「人を思う心をもって関係を構築する力」「自己研鑽して未来を切り開力」「社会に貢献し，変革する力」を基盤にした．学科の目標を専門領域に浸透させて教育の整合性を図り，一貫性を持たせるためである．すなわち，①高齢者を思い，理解し，尊厳を守って関係を構築できる ②高齢社会において今後の展望をもちながら老年看護学を学修できる ③老年看護学を身に付けて高齢社会に貢献できる人材となる学生を育てることを老年看護学教育の根幹とした．これら３つには，老年看護学教員としての学生への責任であり，期待が込められている．よって，教育目的は，「老年期にある人々の特徴や多様な健康レベルと生活を理解し，高齢社会の展望と看護の役割を明確にして，高齢者の尊厳を守り，家族を含めた老年看護が実践できること」である．

２．老年看護学の教育目標

教育目的を達成するために，加齢による変化，高齢者の尊重とコミュニケーション，個別性，社会制度や資源，家族を重要な概念とした．

1）高齢者の加齢による身体，精神，心理社会的な変化を説明できる．
2）高齢者の立場に立ち，尊重した姿勢をもってコミュニケーションを図ることができる．
3）高齢者の健康状態にあった個別性のある看護を計画，実践できる．
4）高齢者の生活に必要な社会制度，社会資源を理解し，家族を含めた看護が考えられる．

３．科目編成と概要

老年看護学概論

２年次前期，１単位 15 時間であり，老年看護学の導入科目である．老いる意味や高齢者の身体，精神，心理社会面の加齢による変化，人口学的・社会的な環境と課題，看護に必要な概念，理論などを学び，老年看護学の位置づけを理解することが教育目的である．

老年看護学援助論

２年後期，30 時間であり，高齢者の健康レベル，生活に合わせた日常生活の援助を理解することを教育目的として，健康な高齢者の日常生活の特徴，健康障がいのために介護を必要とする人の看護，高齢者特有の疾患や症状と看護，認知症の看護，終末期にある人の看護などを講義している．

老年看護学演習

３年前期，１単位であり，高齢者の生活背景の理解や紙面上の事例の看護過程を展開して老年看護の実践を計画することが教育目的である．昭和を中心とした時代背景調査と 70 歳以上の高齢者への面接の実施，高齢者擬似体験，紙面上の事例の看護過程の展開の４つを演習している．

老年看護学実習

３年後期から４年前期，４単位の実習であり，教育目的は高齢者の特徴を踏まえ，尊厳ある自立した生

活を支える看護実践ができることである．３週間の介護老人保健施設実習で受け持ちを持たせていただいて看護過程を展開する実習後，デイケア見学実習，フイールド実習を１週間，取り入れている．フイールド実習は，高齢者の健康や生活の多様性を理解し，今後の健康寿命を延ばす課題等を考えさせるために取り入れている．地域で生活する健康な高齢者を観察して介護老人保健施設やデイケアの高齢者との違いなどを分析する実習である．図１は実習要項の冒頭に記載している４単位の老年看護学実習の概念である．

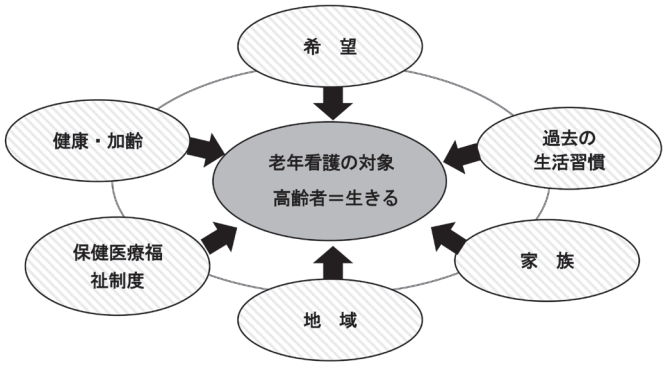

図１　老年看護学実習の概念図

老年看護学実習の基本的な学習の姿勢
☆高齢者が生きることを理解、支援する。
☆高齢者の生活に影響する６つの要因を常に考える。
☆高齢者から学ばせていただく。
　人生の先輩として生きてきたことを尊び、学ばせていただく。
☆看護（ケア）するのではなく、看護（ケア）をさせていただく。

Ⅰ　老年看護学実習全体の目的
高齢者の健康や生活について幅広く理解し、看護の役割を明確にして個別性のある実践を行う。
Ⅱ　老年看護学実習全体の到達目標
１．老年期の身体的、精神的、心理・社会的な特徴を理解し、高齢者の生活習慣や生活の実際に応じた看護が実践できる。
２．高齢者が生活する施設の特徴を理解し、日常生活を自立するための援助について説明できる。
３．在宅、地域社会における高齢者の生活や役割、希望を理解し、高齢者が望む生き方や生活を支えることの重要性を説明できる。
４．高齢者を取り巻く看護・医療・福祉の制度や資源について理解し、多職種と連携した看護の役割、独自性について説明できる。
５．高齢者の生きてきた過程を尊重し、尊厳のある態度で接することができる。

朝日大学保健医療学部看護学科老年看護学実習要項

統合実習（老年看護学）

４年前期，２単位の全看護学実習の最終であり，当看護学科では専門領域ごとに実施している．老年看護学の統合実習は介護老人保健施設で実施し，「施設における高齢者の身体，精神，心理社会面の自立を支える看護の探究」がテーマである．看護過程の展開よりも，毎日の実践の中で，「介護老人保健施設における高齢者の自立を支援する看護」を視点にして，利用者の自立への支援・意味を考えさせている．

４．老年看護学で重視する高齢者のとらえ方

ライフステージ上で青年期に位置する学生にとって老年期はこれから経験する未知の世界である．このため，学生の高齢者へのとらえ方は，学修する姿勢，高齢者理解，老年看護の実践に影響するものであり，老年看護学全体を通して教育の中に浸透させるべきであると考える．高齢者をとらえる上で重視する視点は，高齢者の尊厳を守る，高齢者をポジティブイメージでとらえる，後期高齢者の存在の確かさである．この３つは，老年看護学教育すべての方向性であり，教員の教育への姿勢であり，学生へのメッセージである．

高齢者の尊厳を守る

1969 年に米国の精神科医ロバート・バトラーが社会の中に潜む高齢者への偏見・差別をエイジズム（Ageism）と命名した（鳥羽，2005）．1991 年の国連総会では，高齢者の自立，参加，ケア，自己実現，尊厳の基本的原則が「高齢者のための国連原則」として採択され，各国政府は自国の高齢者の政策プログラ

ムにこの原則を組み入れることを奨励された（国際連合広報センター，1999）．高齢者は年齢を重ねるにつれ，身体的喪失，精神的喪失，心理社会的喪失，内的な自己像の変化などに直面する中で，虐待や差別が顕在，潜在する社会に生きているのは現在も同じである．学生に高齢者の尊厳を守るという姿勢を身に付させる教育は極めて重要であると考える．

当看護学科では２年前期に老年看護学概論が開始され，後期は概論に基づく老年看護学援助論と続き，３年前期に臨地実習に向けた演習があり，後期が老年看護学実習，最後が統合実習である．これらのすべての科目において，高齢者の人間としての尊厳を守る重要性を学生に自然に考えさせている．学生には，“人間が年をとっていくことは自然であり，できないことが増えていくことも自然である．しかし，高齢者自身は最期まで自立したい，自己実現したい思いがある．高齢者は長い人生の中でいろんな苦労や悲しみ，喜びを経験する．生きてきたことを尊び，今，生きていること，これから生きることを支援するのが老年看護学である．”という考え方を伝えている．

また，学生既習の知識を活用して実際に高齢者に出会い，看護を考えて実践するのは，介護老人保健施設の実習が中心となる．介護老人保健施設は高齢者の自立を支援し，在宅復帰を目指すためのリハビリテーションを強化する中間施設である．しかし，核家族化，在宅の介護者不在，経済問題，加齢による慢性的な健康障がいと ADL 低下，認知症など在宅復帰を阻む要因が多く，高齢社会の現実的な問題が存在する．

ほとんどの学生は初めて介護老人保健施設に行くが，１週間ほど実習すると，高齢者を見守り，その人ができることを見つけて ADL が維持・改善できるように，日常生活が楽しく希望をもって過ごせるように，一生懸命，看護を計画し，実践していく．高齢者の尊厳を守ることは，高齢者に寄り添い，一人一人の存在を大切にすることである．実習で学ぶ学生の高齢者に対する姿勢こそ，老年看護学教育で積み上げてきた結果であると考える．

高齢者をポジティブイメージにとらえる

老年看護学概論の第１回目は必ず，学生に無記名のアンケートを実施している（資料１）．これは学生が高齢者と接触する程度や高齢者のイメージ，老年看護学の講義への期待などを知り，教育内容に反映させるためである．祖父母や曾祖父，曾祖母の年齢と思い出，同居状態，高齢者のイメージと老人と断定する年齢，自身が老人になることのイメージ，関心のある高齢者問題，両親の介護に対する考え，老年看護学で学びたい内容を質問している．ここ数年，半数近くの学生に同居経験がなく，老年看護学で高齢者の生活や心理を知りたいと回答する学生が圧倒的に多くなっている．

アンケート結果は，子どもの頃から高齢者と日常に接する機会やコミュニケーションをとる機会も少なく，高齢者のことを知らないままに大学へ入ってきたため，老年看護学で高齢者のことを学修したい希望があると推測される．このことは，老年看護学教育によって高齢者にポジティブイメージを持たせるチャンスであると考える．ポジティブイメージとは，高齢者に肯定的なイメージをもつことであるが，このイメージによって高齢者を受け入れ，積極的に関わるようになると期待される．学生は高齢者に対して実習後にポジティブイメージに変わることが知られているが（近藤他，2004　穴井他，2012），筆者達は実習までの講義や演習によってポジティブイメージが形成されると考える．

そこで，老年看護学概論では，加齢による変化や発達課題，自尊心，回想，高齢社会の現状と課題などを説明する中で，高齢者の脆弱さや機能低下，喪失の一方，生きる力強さ，自己実現など未来に向かう姿をとらえさせている．しかし，ネガティブイメージを持ちやすい学生もいる．講義の最終回に必ず「90 歳以上美のコンテスト」という 90 歳以上が出場条件であるコンテストでそれぞれが特技を披露し，その人生がナレーションで流れるビデオを視聴させている．ビデオは，人間の美しさは目に見える外見ではなく，いろいろな経験をしてきた人生そのものであること，年齢を重ねてできる皺や姿は生きてきた証であるというメッセージを伝えている．高齢になったら人生が終わりではなく，そこから始まることを考え学生は，高齢者をポジティブイメージでとらえるきっかけとなっている．

資料1　　アンケートのお願いについて

老年看護学では皆さんの高齢者との接触や高齢者へのイメージ等を知り、講義と実習指導にいかしたいと考えます。これ以外の目的では使用しませんので、アンケートにお答え下さいますよう、お願いします。

１．祖母、祖父、曾祖母、曽祖父様の年齢を教えて下さい。だいたいで結構です。
①祖母(父方)　（　　）歳　　②祖母（母方）　（　　）歳
③祖父(父方)　（　　）歳　　④祖父（母方）　（　　）歳
⑤曾祖母(父方)　（　　）歳　　⑥曾祖母（母方　（　　）歳
⑦曽祖父（父方）（　　）歳　　⑧曽祖父（母方）（　　）歳

２．祖母、祖父、曾祖母、曽祖父様との同居について、該当する番号に○をつけて下さい。
①現在、同居している　　②子供の頃に同居したことがある
③大学生になるまで同居していた　　④同居した経験がない
その他（　　）

３．祖母、祖父、曾祖母、曽祖父様の思い出について、該当する番号を選んで下さい（複数可)。
④　一緒に遊んだ　②おこつかいをもらった　③おもちゃやお菓子を買ってもらった
④かわいがってもらった　⑤一緒に出かけた　⑥保育園や幼稚園の送り迎えをしてもらった
⑦いろんなことを教えてもらった　⑧病気のとき、看病してもらった
⑨病気のとき、看病した　⑩育ててもらった
その他（　　）

４．あなたの高齢者に対するイメージについて該当するものを○で囲んで下さい（複数可)。
①　やさしい　②厳しい　③おおらか　④頑固　⑤いろんなことを知っている
⑥同じことを何度も言う　⑦怒りやすい　⑧体が弱っている　⑨気力がない
⑩　話しかけにくい　⑪顔や手に皺がある　⑫腰が曲がっている
⑬声が小さい　⑭地味な服を着ている　⑮おしゃれをしない
その他（　　）

５．あなたがイメージする高齢者の年齢に該当する番号に○を付けて下さい。
①40 歳代　②50 歳代　③60 歳代　④70 歳代　⑤80 歳代　⑥90 歳代

６．あなたは高齢者に関心がありますか？該当する数字に○を付けて下さい。
①関心がある　②関心がない　③わからない

７．あなたは自分が年をとっていくこと、老人になることを想像したことがありますか？
①ある　②時々ある　③ない

８．あなたが現在、興味や疑問をもっている高齢者に関する事を教えて下さい。

９．あなたが考える将来のご両親の介護について考えをお聞かせ下さい。

１０．あなたが大学で老年看護学について学びたいことを教えて下さい。

ご協力、どうもありがとうございました。

朝日大学保健医療学部看護学科老年看護学概論講義資料

資料１　アンケートのお願い

老年看学援助論の講義では特に，ADL や IADL は，できないことを中心に考えるのではなく，できること，やっていることを見つけて援助すること，維持，改善する必要性を強調している．ICF（国際生活機能分類 International Classification of Functioning, Disability and Health）の考え方でもあり（上田，2002），高齢者をポジティブな面からとらえてこそ，高齢者の側に立った看護が可能になると考える．

後期高齢者の存在の確かさ

平成 29 年度の高齢社会白書によると，高齢化率は 27.3％になり，平均寿命は男性 80.75 歳，女性 86.99 歳である（内閣府，2017）．ちょうど学生が 3 年次からの介護老人保健施設実習で受け持たせていただく方の年齢に相当する. しかし, 2 年次の老年看護学概論のアンケート結果では, 学生に同居経験がある場合でも, 小さい時の思い出に残る祖父母が後期高齢者に達していない年齢であり，曾祖父，曾祖母が平均寿命に近い年齢の傾向がみられている．学生は後期高齢者と接する機会がないままに実習へ行くことになるため，後期高齢者の存在の確かさを感じてもらう必要がある．

老年看護学概論と老年看護学援助論の講義では，実習施設での学生の実習や施設入居者の生活の様子を紹介したり，地域で暮らす高齢者の実際の生活を説明し，高齢者の個別性，年齢や健康に応じた生活の多様性など身近な話題を取り上げながら後期高齢者を理解させている．さらに，講義前には必ず前回の講義後のリアクションペーパーの質問に丁寧に答え，高齢者の年齢の幅やその特徴などが理解できる機会を大切にしている．また 3 年次の実習前の演習の紙面上の事例では，80 歳代後半の自宅で暮らしていた高齢者が健康障がいで入院し，介護老人保健施設へ移転した例を示して看護計画を立案させている．

これらの取組によって後期の臨地実習では，90 歳代の後期高齢者を受け持つこともあるが，年齢の高さで戸惑う様子はみられない．学生は長く生きてきたその人個人を見ること，関係を作る大切さを伝え，既習の老年看護学の知識と看護の方法等を考え学修している．

Ⅳ．老年看護学教育の今後の課題

2025 年には団塊の世代が後期高齢者となる超高齢社会に突入する．保健医療福祉政策の転換，経済の転換など問題が山積している．老年看護学は社会や地域において高齢者が必要とする看護職を育成する役割がある．これまで述べてきたように，老年看護学教育で重視する高齢者のとらえ方は，学生に高齢者の尊厳を守る姿勢を身に付けさせること，高齢者をポジティブイメージでとらえさせること，後期高齢者の存在の確かさを感じさせることだと考える．学生の背景や特徴を知りながら，また，高齢者を取り巻く社会の情勢を分析しながら教育内容を充実させる必要がある．老年看護学の学部教育の課題として 2 つあげたい．

１．前期老年看護学と後期老年看護学に分けた教育

現在の老年看護学における対象年齢は，老齢年金の受給年齢，国勢調査の老年人口の対象者，介護保険第 1 号被保険者の年齢などから，一般的に 65 歳以上としている．しかし，65 歳以上の世代間の差は歴然としている．一概に高齢者と呼ぶには無理があり，教育の中で取り上げるには説明が困難である．教育を受ける学生が身近に接する後期高齢者は少ない．今後，日本では 2025 年問題もあり，老年人口の中で後期高齢者が占める割合が多くなると予測される．WHO は前期高齢者と後期高齢者を分けているが，看護教育においても前期高齢者看護学と後期高齢者看護学に分ける方が学生にとって理解しやすいと考える．

２．老年看護学を学部カリキュラムの基盤とする

日本の高齢化の伸展は著しいものがあるが，看護教育の実習先でも高齢社会を反映している．成人看護学が実習病院で受け持つ対象者は高齢者が多く, 地域の実習や在宅の実習でも高齢者が対象となることが多い．老年看護学を学修することは，看護の対象者を理解することにつながる．基礎看護学はすべての領域の基盤であるが，高齢者を対象とした老年看護学も基礎看護学と同じような位置づけで教育する体制も必要であると考える．

Ⅴ．おわりに

朝日大学の老年看護学教育を紹介し，今後の課題をあげた．学部では，大学教育としての教員の考え方を明確にして，教育内容を体系的に編成する必要がある．また，国家試験の内容も入れつつ，ポイントを明確に学生に提示しなければならない．老年看護学は時代に合わせて内容を変え，高齢者とつながりが浅くなっている学生が理解できることを第一に考える必要がある．今後も，老年看護学の独自性を追求し，高齢社会に貢献する老年看護学の教育を目指していきたい．

文　献

穴井美恵，荻野朋子，大平政子（2012）．看護大学生の高齢者のイメージ ―高齢者施設に置ける実習前後の変化―．中京学院大学看護学部紀要，2（1），11-17.

総務省 e-Gov.（2017-10-14）. 保健師助産師看護師学校指定規則.
http///www.law.e-gov.jp/htmldata/S26/S26F0350200100.html.

国際連合広報センター（2017-10-14）．高齢化に関する国際行動計画および高齢者のための国連原則.
http://www.unic.or.jp/files/elderly.pdf

近藤ふさえ，丸山昭子（2004）．看護学生の高齢者とのかかわり体験と高齢者イメージとの関連性．日本医学看護学教育学会誌，3，18-25.

内閣府（2017）．平成 29 年版高齢社会白書．2-6.

日本看護協会（2017-10-14）．介護施設の看護実践ガイド.
https/www.nurse.or.jp/nursing/zaitaku /kaigoshisetsu/indez.html

鳥羽美香(2005)．エイジズムと社会福祉実践 ―専門職の高齢者観と実践への影響．文教学院大学研究紀要，7（1），89-100.

上田敏（2002）．ICF:国際生活機能分類と 21 世紀のリハビリテーション．広島大学保健ジャーナル,2（1），6-11.